

特記仕様書

第1章 総 則

1. 本地区の工事仕様は、広島県の「土木工事共通仕様書」、農林水産省「土木工事共通仕様書」「土木工事施工管理基準」による外、この特記仕様書によるものとする。
2. 工事施工に当たり、設計書・図面および仕様書について疑義を生じたときは監督職員に協議し指示を受けること。

第2章 生コンクリート使用区分

名 称	W/C比	スラブ [°]	骨材最大寸法	摘 用 部 材
強度=18N/mm ²	60%	8cm	40mm	無筋構造物・小構造物
強度=24N/mm ²	55%	12cm	20mm	鉄筋構造物

第3章 池内の堆積土及び残土処理

1. 池内堆積土の処理においては、施工時に現地の土を採取し室内試験(密度試験・含水比試験・液性限界試験・塑性限界試験・一軸圧縮試験)を行い、固化材添加量を定め、現位置(池内)で土の安定処理を行なうものとする。

目標とする一軸圧縮強さ $q_u=1/5q_c$ とし、 $q_c=500\text{KN/m}^2$ 以上とする。

受注者は、安定処理の施工に先立ち、室内配合試験を行い、使用する固化材の添加量 について監督職員の承諾を得なければならない。

セメント(固化材)を使用する場合は有害物質となりうるため、六価クロム溶出試験を行い土壤環境基準値の 0.05mg/l 以内とする。

2. 残土は、ため池内に処分するが、処分場所など監督職員と協議を行う。

第4章 環境配慮対策

1. 保護すべき種の確認がある場合、移植先、移植方法など監督職員と協議を行う。
2. 特定外来種などの駆除すべき種が確認されている場合、落水時には一度休耕田などの農地に水深3cm程度で流し込み、網を設置し水路へ流下させる。農地が確保できない場合は、水路等に網を設置し捕獲する。

なお、駆除状況の記録を残すこととする。